

ECONOMY TOPICS

2009.12.7

経済トピックス

NO.401



平成 21 年冬のボーナス調査

レポートの概要

平成 21 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 33 万 7 千円となり、昨年冬の受給実績に比べ 2 万 4 千円下回った。一方、ボーナス希望額は平均で 49 万 6 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は「良くなる」とする割合が幾分減少、「悪くなる」とする割合が増加し、期待指数が低下した。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 38.1%、「貯蓄」が 42.8%、「返済」が 19.1%の割合となり、前年同期に比べ「消費」が低下し、「貯蓄」、「返済」割合が上昇した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「教育」、「老後の備え」がこれに続き、ベスト 3 は前年同期調査と同様の結果となった。

最近の暮らし向き調査では、暮らし向き指数が 21 年夏に比べて 0.2 ポイント低下した。「良くなった」、「悪くなった」とする割合はほぼ横バイとなり、暮らし向きは厳しい状態が続いていることがうかがわれた。今後の暮らし向きについては「悪くなる」とする割合が増加し、厳しさが続くものと予想される。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 2 千円、ボーナス時は約 4 万 9 千円となった。最も小遣いが多かったのは毎月、ボーナス時とも 20 代男性、一方、最も少なかったのは毎月、ボーナス時とも 50 代女性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 34.1%となった。「予定あり」の割合は、20 代ではほぼ 1 割に過ぎないのに比べ、50 代では 6 割を超えており、年代が進むにつれて大幅に増加している。「予定あり」回答者の平均の贈答先数は 4.8 先、1 先当たりの平均金額は 4,290 円、御歳暮予算は合計で約 2 万円となった。昨年調査に比べて贈答先数が横バイとなり、平均金額、予算額は幾分減少した。

1. 平成 21 年冬のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

前年を 2 万 4 千円下回る、平均 33 万 7 千円

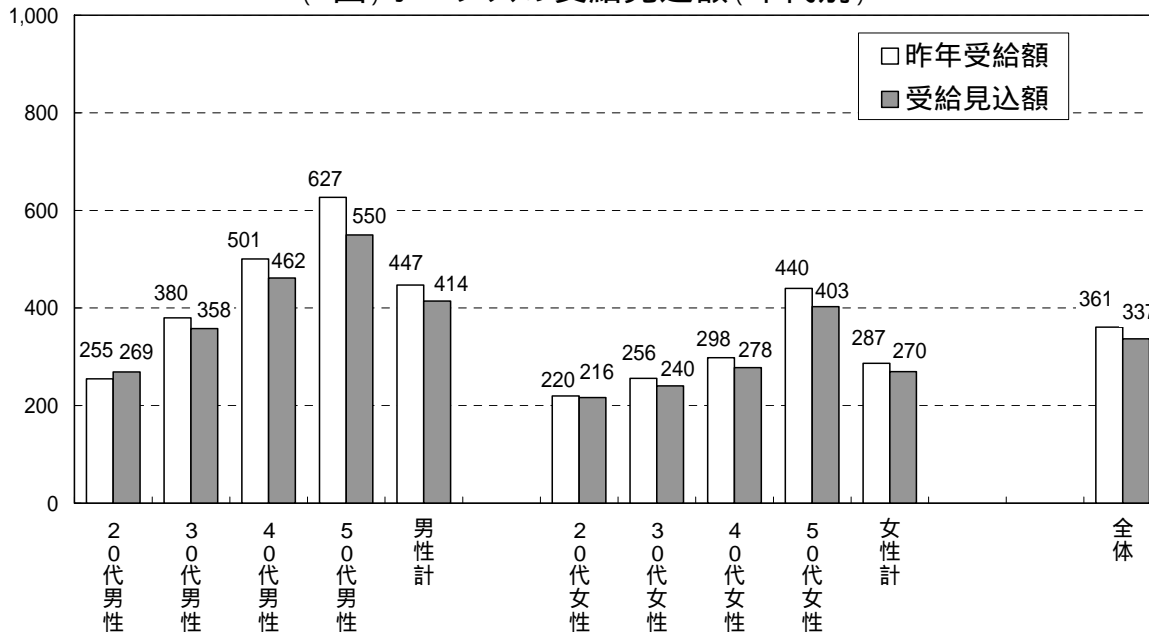
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で 33 万 7 千円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均 36 万 1 千円)に比べ 6.6%、2 万 4 千円下回った。これを年代別・男女別に見ると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 55 万円、次いで 40 代男性の 46 万 2 千円、50 代女性の 40 万 3 千円などの順となった。

男女別の平均見込み額を比較すると、男性は 41 万 4 千円、女性が 27 万円となり、男性が女性より 14 万 4 千円多くなっている。

なお、今冬の見込額と昨年冬の受給額との開きをみると、20 代男性のみが 1 万 4 千円上回るとしている。一方、他の年代は全て、昨年冬の受給額を下回る見込みとなっており、差額の大きい順に 50 代男性が 7 万 7 千円、40 代男性が 3 万 9 千円、50 代女性が 3 万 7 千円などの順となっている。

(以上、1 図参照)

(1図) ボーナスの受給見込額(年代別)



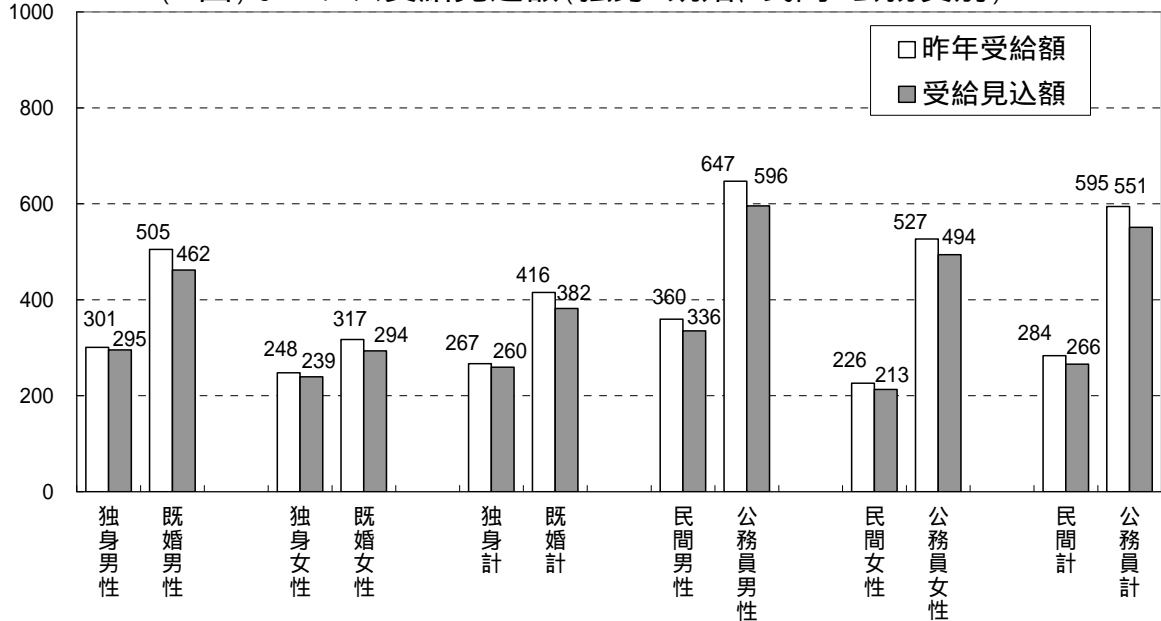
次に、独身・既婚別の受給見込額を見ると、独身者が 26 万円、既婚者が 38 万 2 千円となった。昨年冬の受給実績と比べ独身者が 7 千円、既婚者が 3 万 4 千円それぞれ

下回った。また、民間・公務員別では、民間が 26 万 6 千円、公務員が 55 万円 1 千円の見込みとなり、それぞれ昨年冬の受給額を下回る見込みとなっている。

(以上、2 図参照)

(千円)

(2図) ボーナス支給見込額(独身・既婚、民間・公務員別)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均 49 万 6 千円、支給見込額の 1.47 倍

今冬のボーナス希望額は平均で 49 万 6 千円となり、平均支給見込額 33 万 7 千円に比べ 1.47 倍(差額、15 万 9 千円)となった。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50 代男性が 77 万 7 千円でトップ、以下、40 代男性の 67 万 5 千円、50 代女性の 58 万 4 千円、30 代男性の 55 万 3 千円などと続いた。

性が 1.55 倍で最も高く、次いで 30 代男性の 1.54 倍などと続いており、最も低かったのは 50 代男性の 1.41 倍であった。

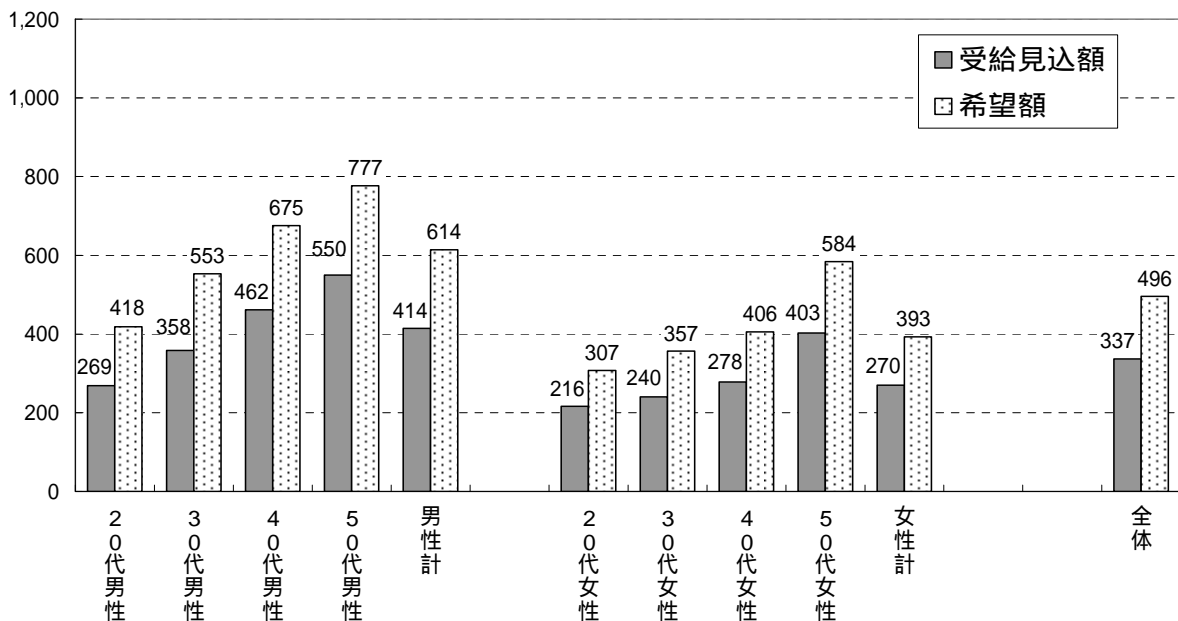
また差額では、50 代男性が 22 万 7 千円で最も大きく、次いで 40 代男性の 21 万 3 千円などと続き、各年代とも男性が女性に比べて見込額と希望額との開きが大きかった。

(以上、3、4 図参照)

支給見込額と希望額を比べると、20 代男

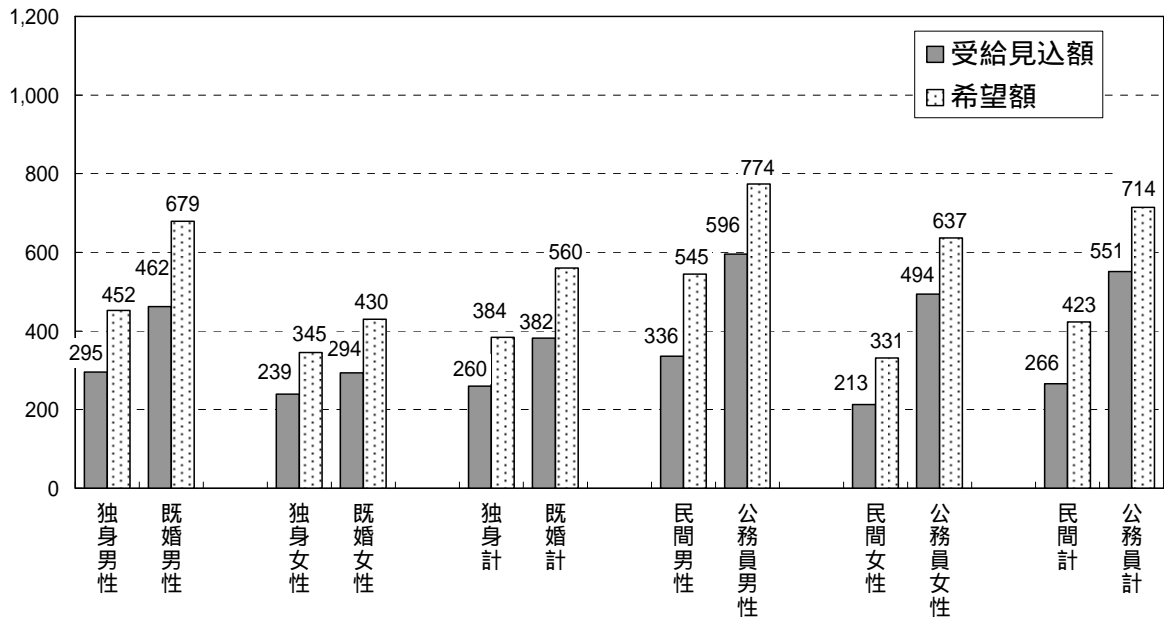
(千円)

(3図) ボーナス希望額(年代別)



(千円)

(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



ボーナスの伸びについて

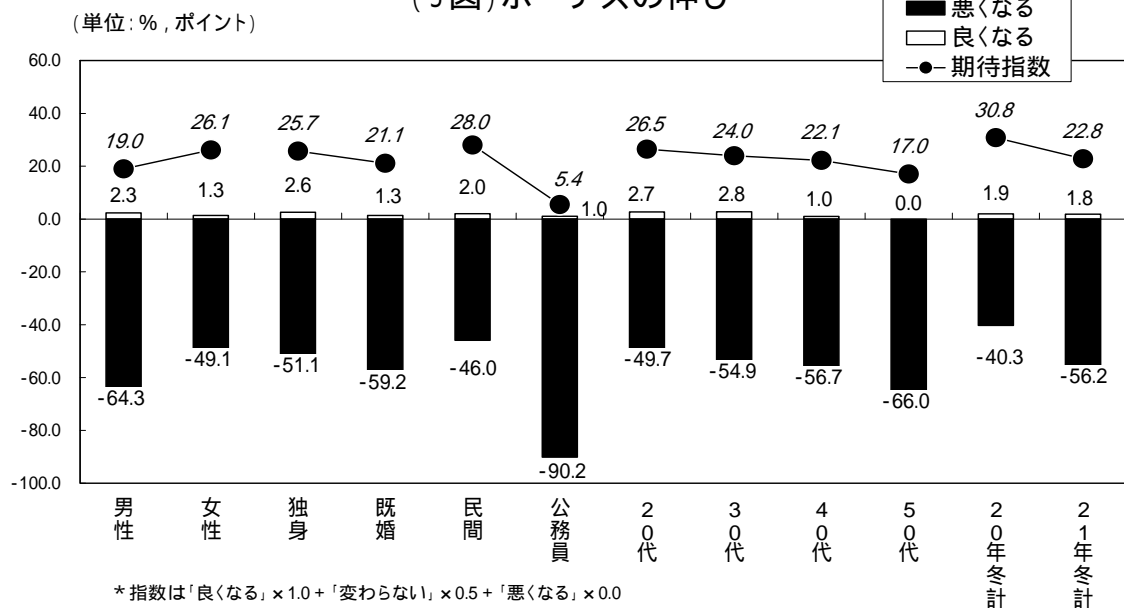
期待指数 8.0 ポイント低下

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、20年冬に比べ0.1ポイント減少の1.8%、「変わらない」が同15.8ポイント減少の42.0%、一方「悪くなる」は同15.9ポイント増加の56.2%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注

記参照)は22.8となり、前年同期に比べて8.0ポイント低下した。ボーナスの伸びに対しては、「良くなる」とする割合は各属性とも3%未満となり、50代では回答者がゼロとなった。また、「悪くなる」とする割合は公務員が90.2%を占めたほか、各属性で40%を超えるなど、全体に厳しい見方が広がっている。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



(4) ボーナスの使途計画

消費割合が幾分低下

この冬のボーナスの使途計画は、「消費」が38.1%、「貯蓄」が42.8%、「返済」が19.1%の割合となった。前年同期と比べると、「消費」割合が1.6ポイント低下した。一方、「貯蓄」割合は0.6ポイント、「返済」割合は1.0ポイントそれぞれ上昇した。

属性別のボーナス使途計画をみると、消費割合、貯蓄割合は女性、独身者が、返済割合は男性、既婚者がそれぞれ幾分高かった。

なお、年代別に見ると、20代から40代ま

では年代が進むにつれて「消費」割合が高くなり、「貯蓄」割合が低くなっている。40代では「消費」が「貯蓄」を3.4ポイント上回っているが、50代では「貯蓄」が「消費」を5.2ポイント上回っている。「返済」割合は年代が進むにつれて割合が高くなっている。内訳をみると、20代では自動車ローン返済の割合が高く、40代以降では住宅ローンのほか教育ローンを含むその他返済の割合も高かった。

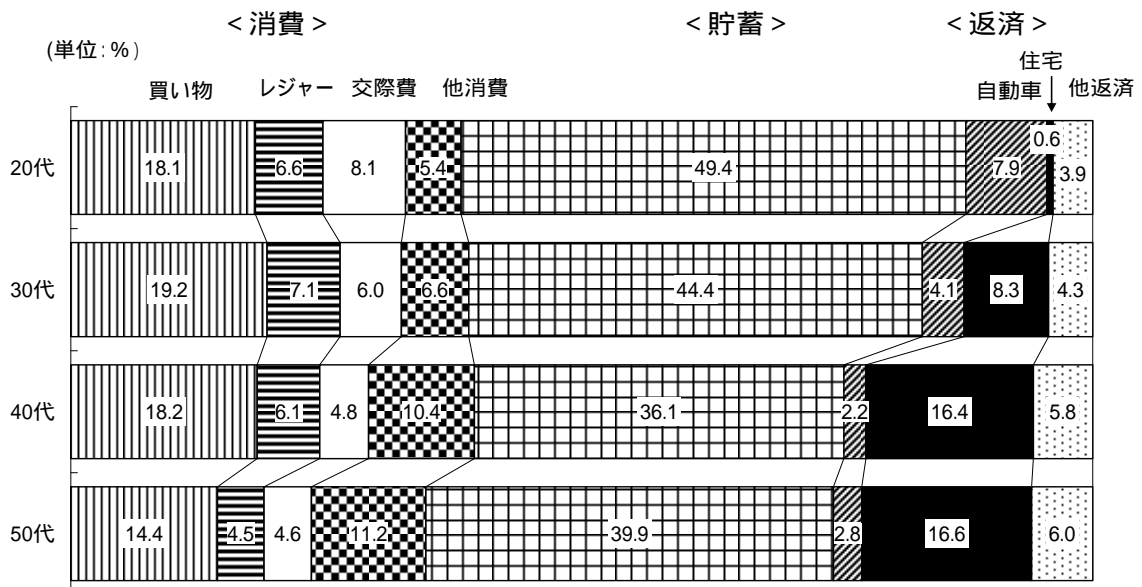
(以上、1表、6図参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位: %)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合	返済割合		
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車			住宅	その他	
男性	35.2	15.9	5.6	6.1	7.6	39.3	25.5	5.5	14.4	5.5
女性	40.8	19.6	6.9	5.8	8.5	45.9	13.3	3.3	5.7	4.3
独身者	40.2	17.8	6.9	8.2	7.3	46.3	13.5	6.0	3.3	4.2
既婚者	36.9	17.9	5.9	4.6	8.5	40.6	22.5	3.3	13.9	5.3
民間	38.6	18.2	6.4	6.3	7.7	42.6	18.8	4.3	10.1	4.4
公務員	36.8	16.7	6.1	4.9	9.1	43.2	20.0	4.5	9.1	6.4
21年冬計	38.1	17.8	6.3	6.0	8.0	42.8	19.1	4.3	9.9	4.9
20年冬計	39.7	18.3	6.1	7.0	8.3	42.2	18.1	4.1	7.5	6.5
19年冬計	40.2	16.9	6.1	6.8	10.4	39.3	20.5	5.6	7.9	7.0

(6図) 年代別ボーナスの使途計画



(5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」、「教育」、「老後の備え」がベスト3

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が49.4%で最も高く、以下「教育」が29.0%、「老後の備え」が25.7%などと続いた。

前年同期との比較では、ベスト3に変わりがなかったが、「特に～安心だから」の割合が2.9ポイント上昇し、「旅行」の割合は4.6ポイント低下した。

男女別に見ると、男性は前記ベスト3と同

様の回答となったが、女性は「老後の備え」、「教育」の順となり、「旅行」の割合も高かった。また、独身・既婚別では、独身者の「特に～安心だから」の割合が6割を超えたほか、「旅行」、「結婚」の高さが目立った。一方、既婚者は「教育」がトップを占めたほか、「老後の備え」、「住宅」の割合が比較的高かった。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的

(単位: %)

	男	性女	性独	身既	婚	21年冬計	20年冬計	19年冬計
住 宅	16.3	11.0	7.2	17.4	13.4	15.0	14.3	
教 育	(2) 35.3	(3) 23.8	4.4	(1) 45.1	(2) 29.0	(2) 29.7	(2) 28.1	
結 婚	6.2	9.6	(3) 20.4	0.0	8.0	8.8	8.2	
旅 行	12.5	22.9	(2) 22.0	15.6	18.1	22.7	21.1	
耐久性消費財	17.0	13.3	14.8	15.1	15.0	11.2	12.0	
病気の備え	11.1	14.5	11.6	13.8	12.9	15.7	13.2	
老後の備え	(3) 25.6	(2) 25.8	13.2	(3) 33.9	(3) 25.7	(3) 28.3	(3) 27.6	
安心だから	(1) 48.8	(1) 49.9	(1) 64.4	(2) 39.6	(1) 49.4	(1) 46.5	(1) 45.0	

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き、厳しい状態が続く

まず、「今年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」が2.7%、「変わらない」が58.7%、「悪くなった」が38.6%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は32.1と、21年夏に比べ0.2ポイント上昇した。「良くなった」、「悪くなった」とする割合がともに幾分減少したものの、全体としてはほぼ横バイとなり、暮らし向きは厳しい状態が続いていることがうかがわれた。

属性別に見ると、「良くなった」とする割合は全階層で6%未満にとどまり、50代では0.6%となった。一方、「悪くなった」とする割

合は、50代で50%を超えた。また、「変わらない」とする割合が50代を除いて各属性とも50%を超えているが、これは「悪くなった」状態が継続しているという見方も考えられ、厳しい状況に変わりがないことがうかがわれる。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」が4.1%、「変わらない」が50.1%、「悪くなる」が44.9%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を2.5ポイント下回る29.6となり、今後も暮らし向きの厳しさが続くものと予想される。

(以上、3表、7図参照)

(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

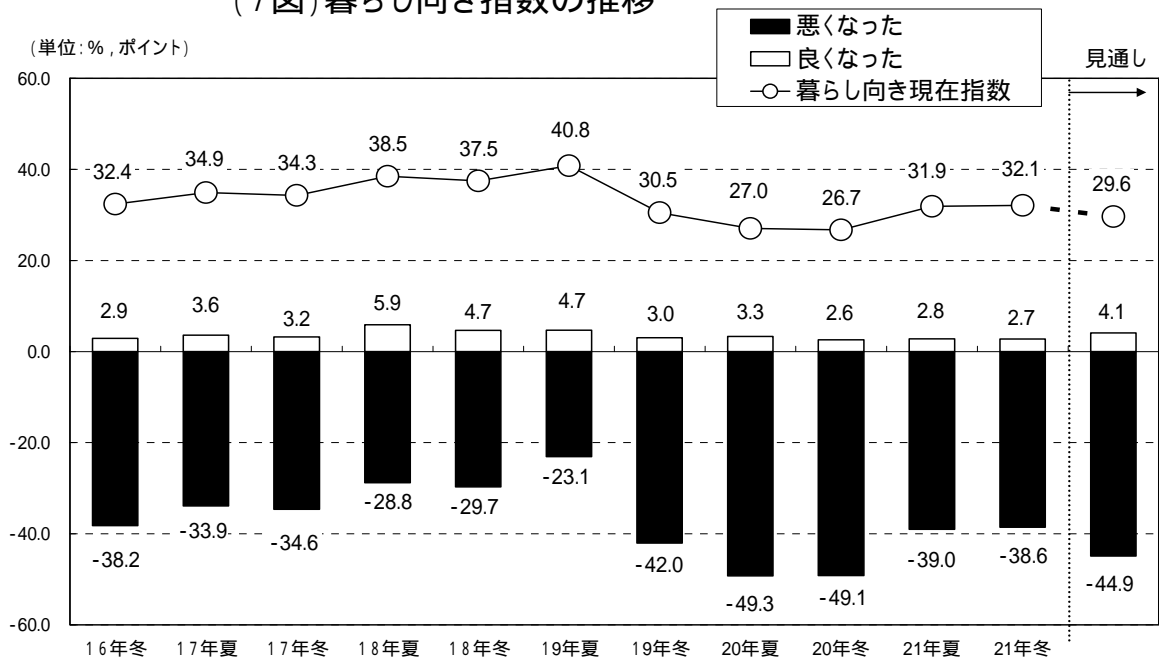
(単位:%,ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	2.0	4.3	56.0	48.5	42.0	47.3	30.0	28.5
女性	3.4	4.0	60.9	53.2	35.7	42.9	33.8	30.6
独身	4.2	5.7	66.0	57.4	29.8	36.9	37.2	34.4
既婚	1.8	3.1	54.2	47.1	43.9	49.7	29.0	26.7
民間	3.1	5.0	59.1	53.0	37.8	41.9	32.6	31.6
公務員	1.5	1.0	57.4	44.3	41.1	54.7	30.2	23.1
20代	5.5	8.5	68.8	59.5	25.6	32.0	39.9	38.3
30代	3.0	4.0	63.2	54.8	33.8	41.2	34.6	31.4
40代	1.4	3.2	53.4	48.0	45.2	48.9	28.1	27.1
50代	0.6	0.0	44.2	37.0	55.2	63.0	22.7	18.5
全体	2.7	4.1	58.7	51.0	38.6	44.9	32.1	29.6

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

(7図) 暮らし向き指数の推移



3. 県内給与所得者の小遣いについて

毎月約3万2千円、ボーナス時約4万9千円

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約3万2千円、ボーナス時は約4万9千円となった。これを男女別に見ると、男性は毎月の平均額が約3万7

千円、ボーナス時は約5万1千円、女性は毎月が約2万8千円、ボーナス時が約4万7千円となった。

次に年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは20代の約3

万8千円、逆に最も少ないのは40代の約2万8千円、ボーナス時では最も多いのが20代の約6万2千円、最も少ないのは50代の約4万円となった。

男女別、年代別に見ると、全階層で男性の小遣いが女性を上回っている。また、最

も小遣が多かったのは、毎月、ボーナス時ともに20代男性、一方、最も少なかったのは毎月、ボーナス時とも50代女性であった。

(以上、4表参照)

(4表)小遣いの額

(単位:円)

	男性		女性		総計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20代	43,413	75,849	34,699	54,261	37,818	62,376
30代	39,847	59,022	27,953	47,183	33,190	52,602
40代	31,810	51,228	24,000	40,526	28,463	45,877
50代	36,286	39,851	20,708	39,773	29,155	39,820
年代計	37,222	50,640	27,827	46,906	32,280	48,770

4.この冬の御歳暮事情について

予定あり34.1%、贈答先数4.8先、平均金額4,290円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の34.1%が「予定あり」としている。

属性別に見ていくと、独身・既婚別では、既婚者の45.9%が「予定あり」としているのに対して、独身者はほぼその1/3の14.8%にとどまった。また、年代別では、20代は「予定あり」がほぼ1割に過ぎないのに比べ、50代では6割を超えており、年代が進むにつれて大幅に増加している。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と1先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数は4.8先、1先当たりの平均金額は

4,290円となり、御歳暮予算合計額は約2万円となった。昨年調査と比べると、贈答先数(前年同期4.8先)が横バイとなり、平均金額(同4,441円)、予算額(同約2万円)は幾分減少した。属性別にみると、独身・既婚別では贈答先、予算額は既婚者が独身者を上回ったが、平均金額は独身者が上回った。また、年代別では、年代が進むにつれて贈答先数、平均金額、予算額とも増加している。

(以上、5表、6表参照)

(5表)御歳暮の予定

(単位:%)

	予定あり	予定なし
独身	14.8	85.2
既婚	45.9	54.1
20代	11.7	88.3
30代	23.6	76.4
40代	47.3	52.7
50代	64.7	35.3
全体	34.1	65.9

(6表)御歳暮の先数と予算

(単位:先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	3.4	5,000	17,500
既婚	5.1	4,149	20,720
20代	3.2	3,587	10,783
30代	4.5	4,138	17,978
40代	4.4	4,401	18,796
50代	5.9	4,448	25,526
全体	4.8	4,290	20,189

(注)回答項目をそれぞれ単純平均

調査要領

- 調査項目
1. 平成 21 年冬のボーナス調査
2. 最近の暮らし向き調査
3. 県内給与所得者の小遣いについて
4. この冬の御歳暮事情
- 調査対象者
県内在住の男女給与所得者
- 調査時期
平成 21 年 11 月上旬～中旬
- 配布・回収枚数
配布枚数 1,000 枚
回収枚数 878 枚(回収率 87.8%)

回答者内訳

(単位:人、歳)

属性	男性	女性	合計
20 代	69 (25.3)	131 (25.4)	200 (25.4)
30 代	130 (34.3)	173 (34.4)	303 (34.4)
40 代	121 (43.9)	100 (44.0)	221 (43.9)
50 代	80 (54.9)	74 (54.1)	154 (54.5)
独 身	116 (31.8)	218 (31.8)	334 (31.8)
既 婚	284 (43.0)	260 (41.3)	544 (42.2)
氏 同 正 業	287 (39.0)	389 (36.7)	676 (37.7)
公 務 員	113 (41.7)	89 (38.4)	202 (40.2)
合 計	400 (39.8)	478 (37.0)	878 (38.3)

注:()内は平均年齢

【 本件に関する照会先 】

財団法人 青森地域社会研究所
担当 野 里 和 廣
TEL 017-777-1511